

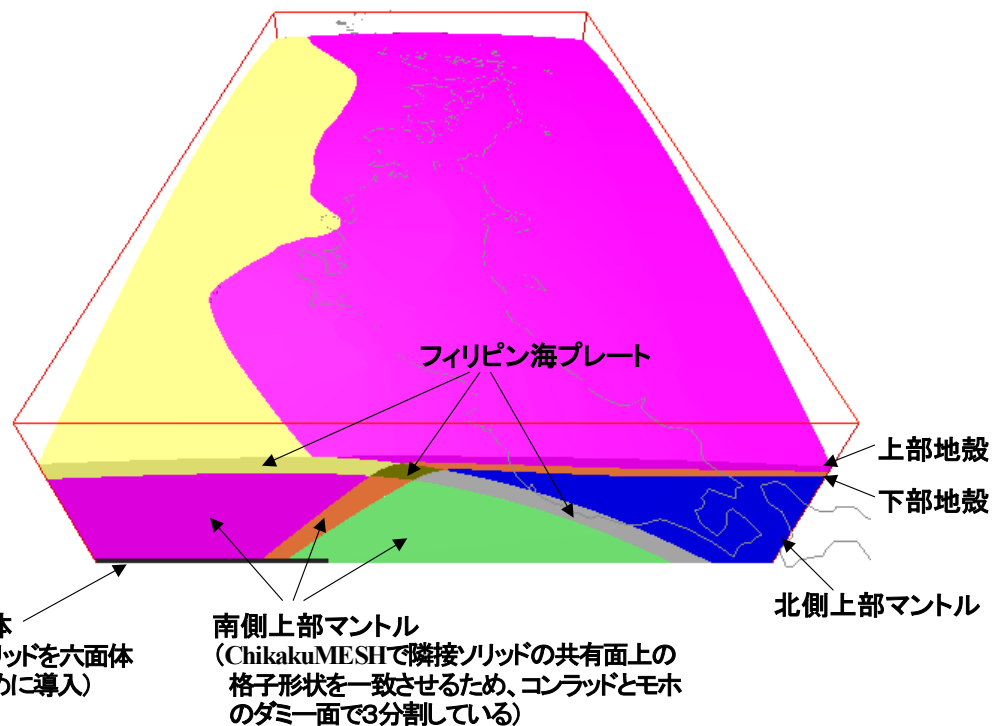
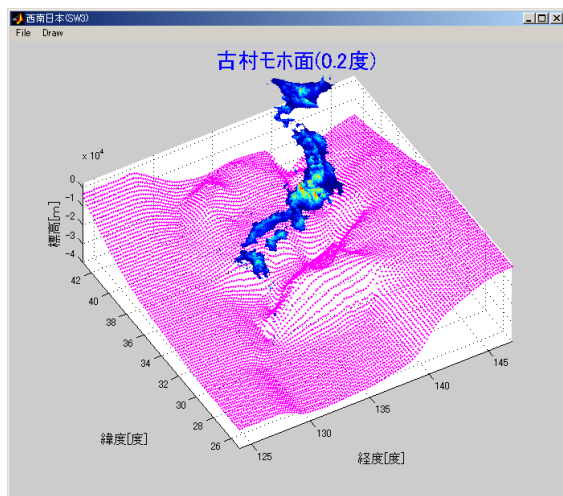
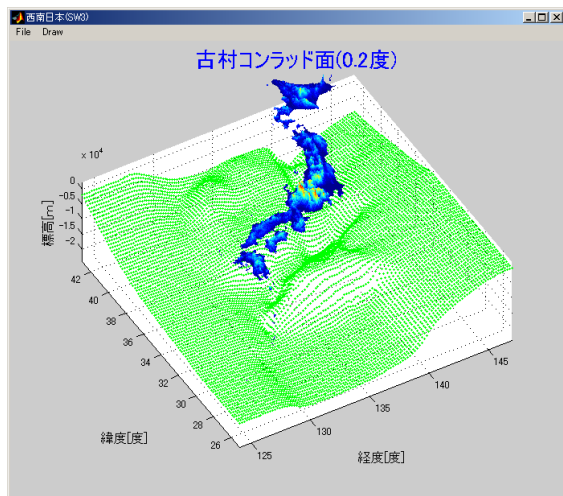
内点法による接触問題の求解 に関する検討

宮村 倫司(日大), 寒野善博(東大),
大崎 純(京大)

平成18年11月3日JSME CMD

地殻構造のモデリング

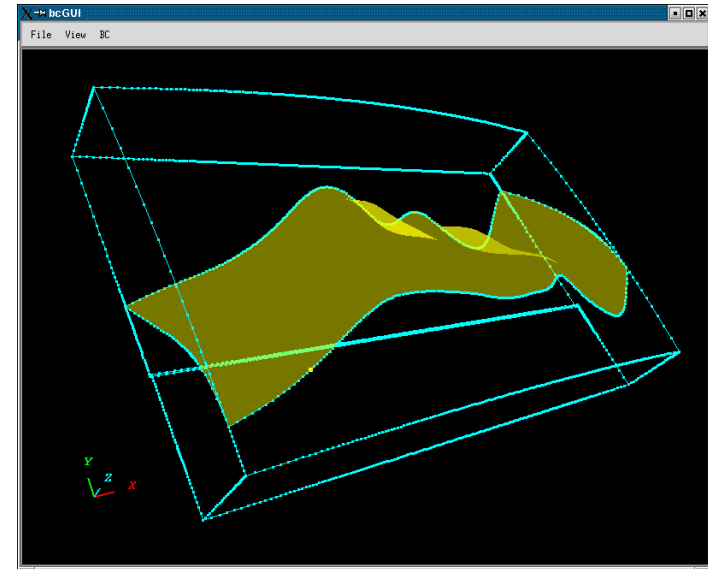
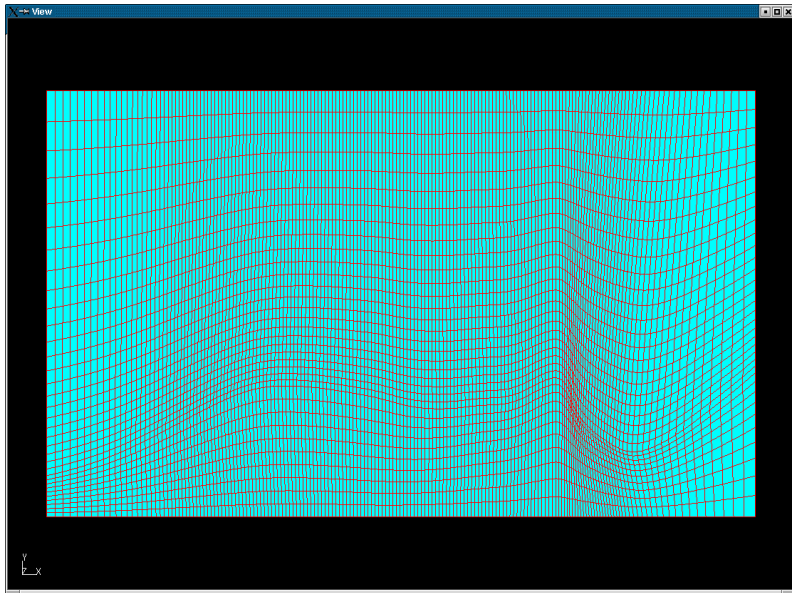
CHIKAKUシステム(理研)



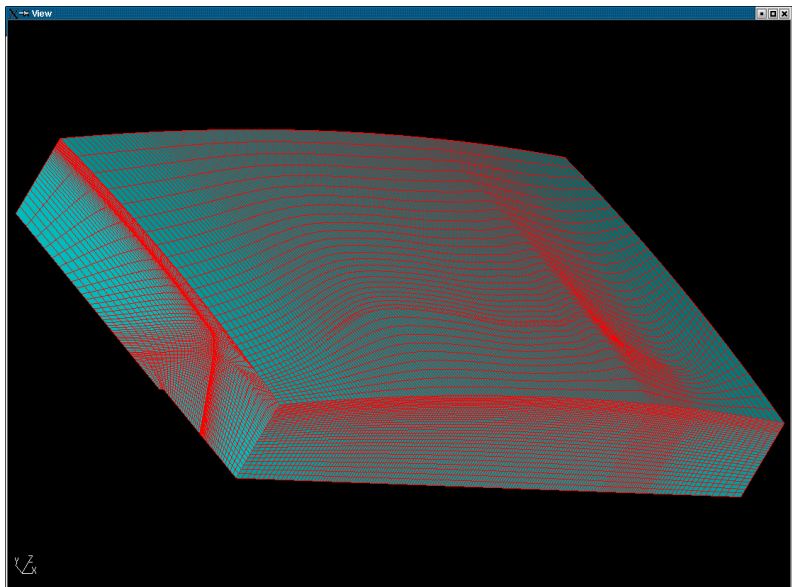
ソリッドモデル

不連続面のデータ

地殻構造のメッシュ



プレート間境界面



地球シミュレータ, 東大地震研,
CHIKAKU(理研, JAEA)

六面体, 445440要素,
473900節点, 1421700自由度

目次

- 接触問題(片側応力問題)
- 内点法
- 内点法の接触問題への適用
- 数値解析例

接触問題

ラグランジエ乗数

$$\mathbf{K}\mathbf{u} - \mathbf{T}^T \mathbf{r} = \mathbf{f}$$

釣り合い式

$$\mathbf{g} = \mathbf{T}\mathbf{u} - \mathbf{h}$$

ギャップ

$$\mathbf{r} \geq \mathbf{0}$$

接触しているときには圧縮

$$\mathbf{g} \geq \mathbf{0}$$

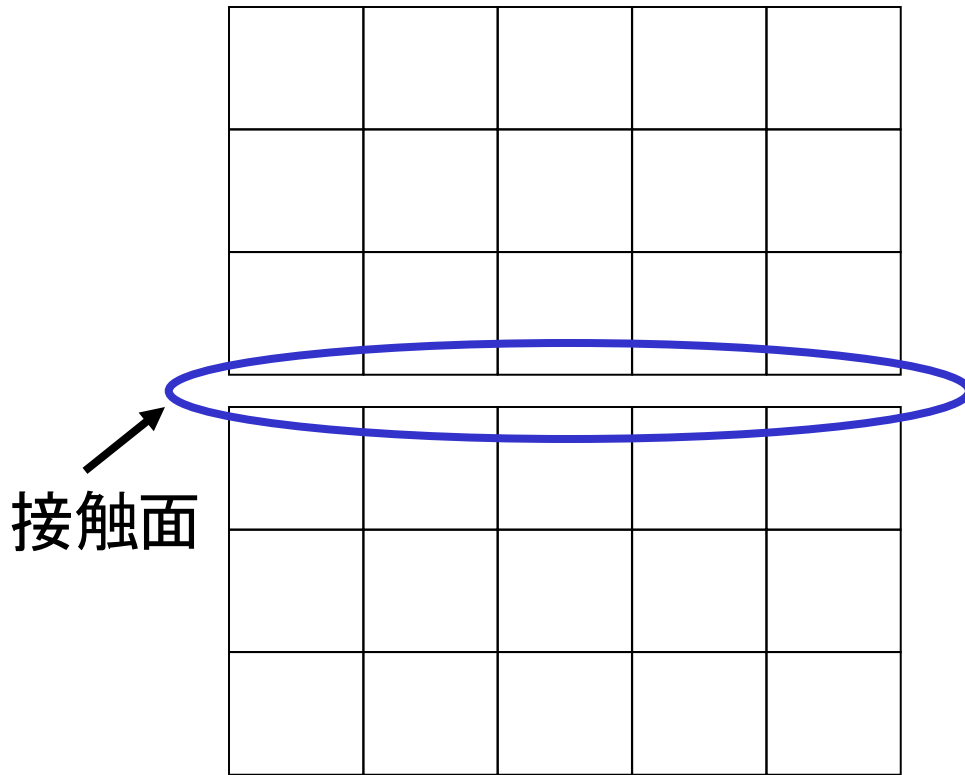
貫入しない

$$\mathbf{G}\mathbf{r} = \mathbf{0}$$

接触力またはギャップが0

片側応力問題, 接触領域が未知

節点对節点接触モデル(FEM)



- 接触しそうなところがわかっている
- 接触面での表面メッシュパターンが同じになるようにメッシュを切る
- 節点同士の接触のみを考える
- 地殻構造のメッシュにもこのモデルが適用できる

最小化問題への変換

目的関数: $\frac{1}{2} \mathbf{u}^T \mathbf{K} \mathbf{u} - \mathbf{f}^T \mathbf{u} \rightarrow$ 最小化

条件: $\mathbf{g} = \mathbf{T} \mathbf{u} - \mathbf{h}$

$$\mathbf{g} \geq 0$$

この問題のKarush-Kuhn-Tuchker (KKT) 条件 が元の問題

内点法

- 数理計画法
- 不等式制約条件を伴う問題の効率的解法
- 対数障壁関数を導入
- 実行可能多面体の内部を通過して最小解に到達する
- 大規模な問題も解かれている

内点法の接触問題への適用

- 接触・非接触を試行錯誤法で決めると収束しないことがある
- 等式標準形二次計画問題に変換
⇒変数が2倍以上になる
- 主内点法を直接適用

対数障壁関数の導入

目的関数: $\frac{1}{2} \mathbf{u}^T \mathbf{K} \mathbf{u} - \mathbf{f}^T \mathbf{u} - \mu \sum_{i=1}^{n_c} \log g_i \longrightarrow$ 最小化

μ を段々小さくする \Rightarrow
activeでない制約条件
の効果はなくなる

条件: $\mathbf{g} = \mathbf{T} \mathbf{u} - \mathbf{h}$
 $\mathbf{g} > 0$

Lagrange関数:

$$L = \frac{1}{2} \mathbf{u}^T \mathbf{K} \mathbf{u} - \mathbf{f}^T \mathbf{u} - \mu \sum_{i=1}^{n_c} \log g_i + \mathbf{r}^T (\mathbf{g} - \mathbf{T} \mathbf{u} + \mathbf{h})$$

最適性条件 (Lagrange関数の停留条件)

$$\mathbf{K}\mathbf{u} - \mathbf{T}^T \mathbf{r} = \mathbf{f}$$

$$\mathbf{g} = \mathbf{T}\mathbf{u} - \mathbf{h}$$

$$\mathbf{g} > \mathbf{0}$$

$$\mathbf{G}\mathbf{r} = \mu \mathbf{e}$$

対数障壁関数の二次近似

$$\mathbf{p}(\mathbf{g}) = -\mu \sum_{i=1}^{n_c} \log g_i$$

対数なので非線形




$$\mathbf{q}^k(\Delta \mathbf{g}) = \mathbf{p}(\mathbf{g}^k) - \mathbf{e}^T \mathbf{G}_k^{-1} \Delta \mathbf{g} + \frac{1}{2} \Delta \mathbf{g}^T \mathbf{G}_k^{-2} \Delta \mathbf{g}$$

二次近似

$(\mathbf{u}^k, \mathbf{g}^k)$ において二次近似

$$\text{目的関数: } \frac{1}{2}(\mathbf{u}^k + \Delta \mathbf{u})^T \mathbf{K}(\mathbf{u}^k + \Delta \mathbf{u}) - \mathbf{f}^T(\mathbf{u}^k + \Delta \mathbf{u}) + \mu \mathbf{q}^k(\Delta \mathbf{g})$$

 最小化

条件:

$$\Delta \mathbf{g} = \mathbf{T} \Delta \mathbf{u}$$

$$\mathbf{g}^k + \Delta \mathbf{g} > \mathbf{0}$$

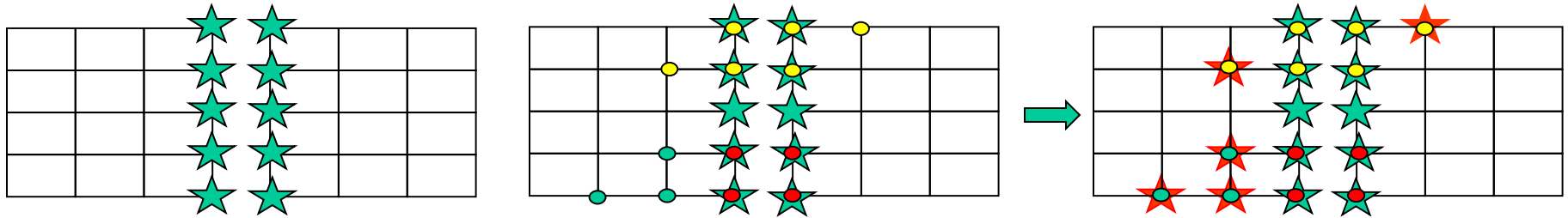
二次近似のLagrange関数の停留条件

$$\begin{bmatrix} \mathbf{K} & \mathbf{0} & -\mathbf{T}^T \\ \mathbf{0} & \mu \mathbf{G}_k^{-2} & \mathbf{I} \\ -\mathbf{T} & \mathbf{I} & \mathbf{0} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \Delta \mathbf{u} \\ \Delta \mathbf{g} \\ \mathbf{y} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} -\mathbf{K}\mathbf{u}^k + \mathbf{f} \\ \mu \mathbf{G}_k^{-1} \mathbf{e} \\ \mathbf{0} \end{bmatrix}$$

係数行列はスパース

$\mathbf{g}^k + \Delta \mathbf{g} > \mathbf{0}$ は無視

多点拘束条件 (MPC) を 考慮した領域分割法



- ★ 領域間境界自由度
- MPCに関係した節点
- ★ 新しい領域間境界
自由度

シユアコンプリメント

$$\begin{bmatrix} \mathbf{S} & -\mathbf{B} \\ -\mathbf{B}^T & \mathbf{O} \end{bmatrix} \begin{Bmatrix} \mathbf{u}_B \\ \boldsymbol{\lambda} \end{Bmatrix} = \begin{Bmatrix} \bar{\mathbf{p}}_B \\ \mathbf{r} \end{Bmatrix}$$

Lagrange 乗数

各部分領域の内部のMPCはなくなる

アルゴリズム (初期化)

$$\mathbf{u}^0 = \mathbf{0}$$

ギャップを計算

$$\mu = \gamma \mu^0 \text{ として}$$

$$\Delta \mathbf{u} \text{ を求め } \mathbf{u}^1 = \Delta \mathbf{u}$$

アルゴリズム（反復）

ギャップを計算する

$\mu = \gamma \mu^k$ として $\Delta \mathbf{u}$ を求める

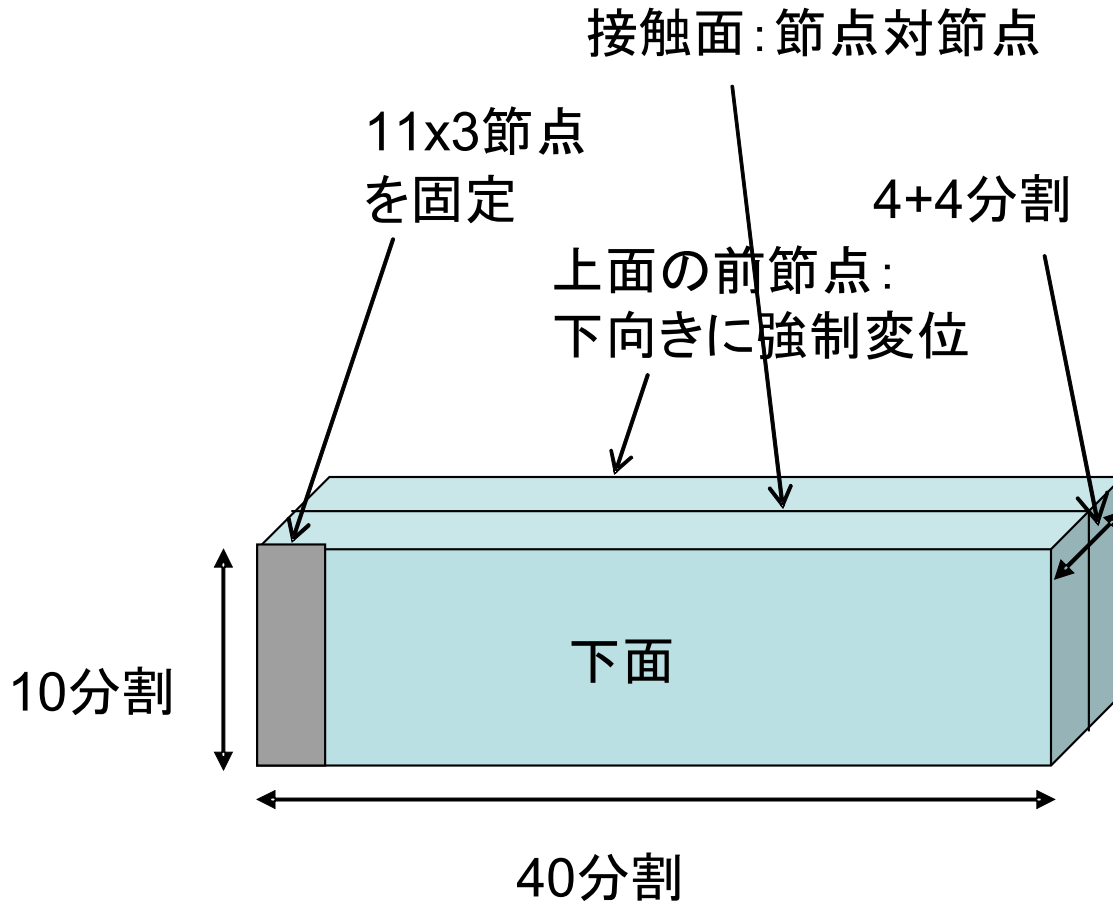
$$\mathbf{u}^{k+1} = \mathbf{u}^k + \alpha \Delta \mathbf{u}$$

$$\frac{1}{2} \mathbf{u}^T \mathbf{K} \mathbf{u} - \mathbf{f}^T \mathbf{u} - \mu \sum_{i=1}^{n_c} \log g_i$$

を最小化するように α をラインサーチ + 中点法で決める

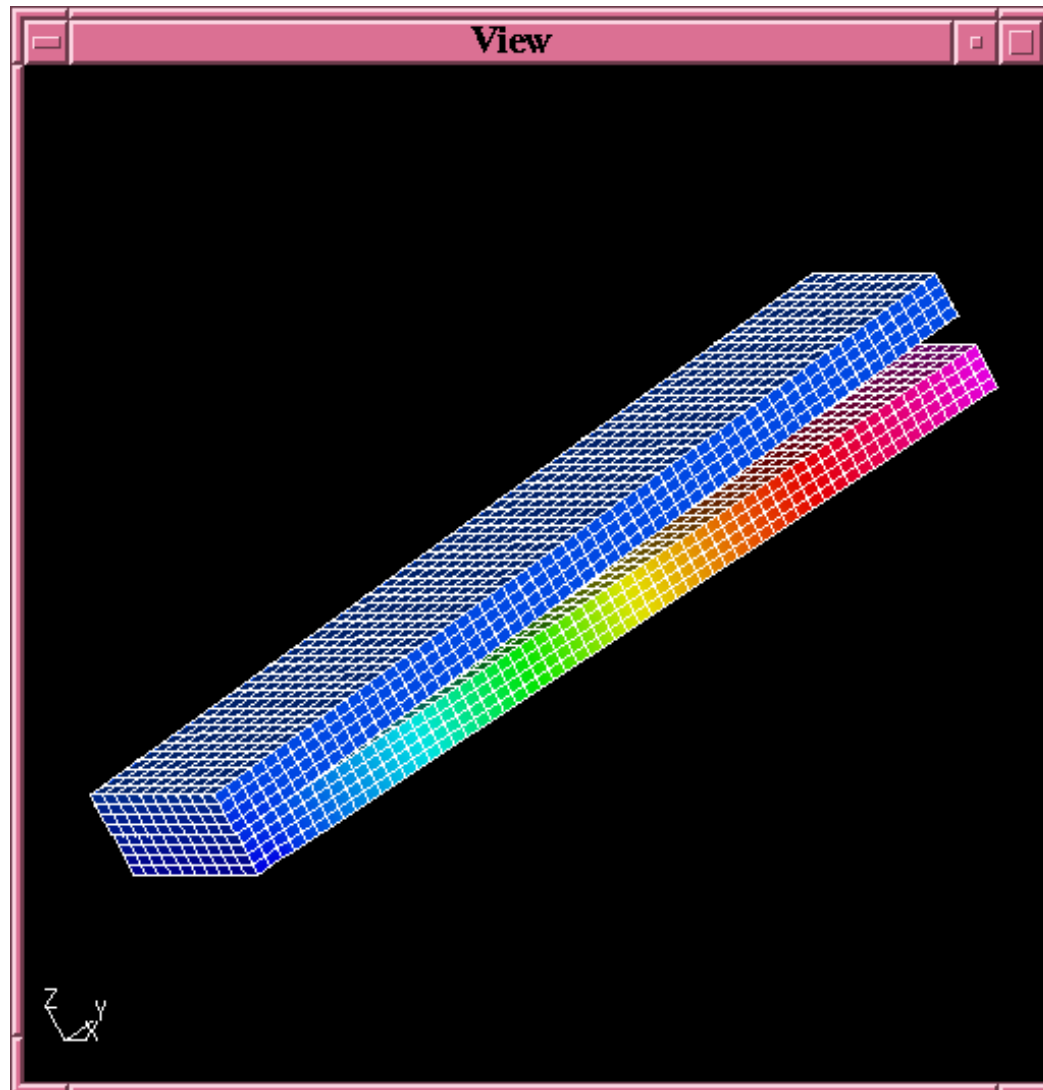
$$\begin{aligned} \mu^{k+1} &= \mu^k - \beta (\mu^k - \mu) & \alpha > 1 &\Rightarrow \beta = 1 \\ & & \alpha \leq 1 &\Rightarrow \beta = \alpha \end{aligned}$$

数値解析例

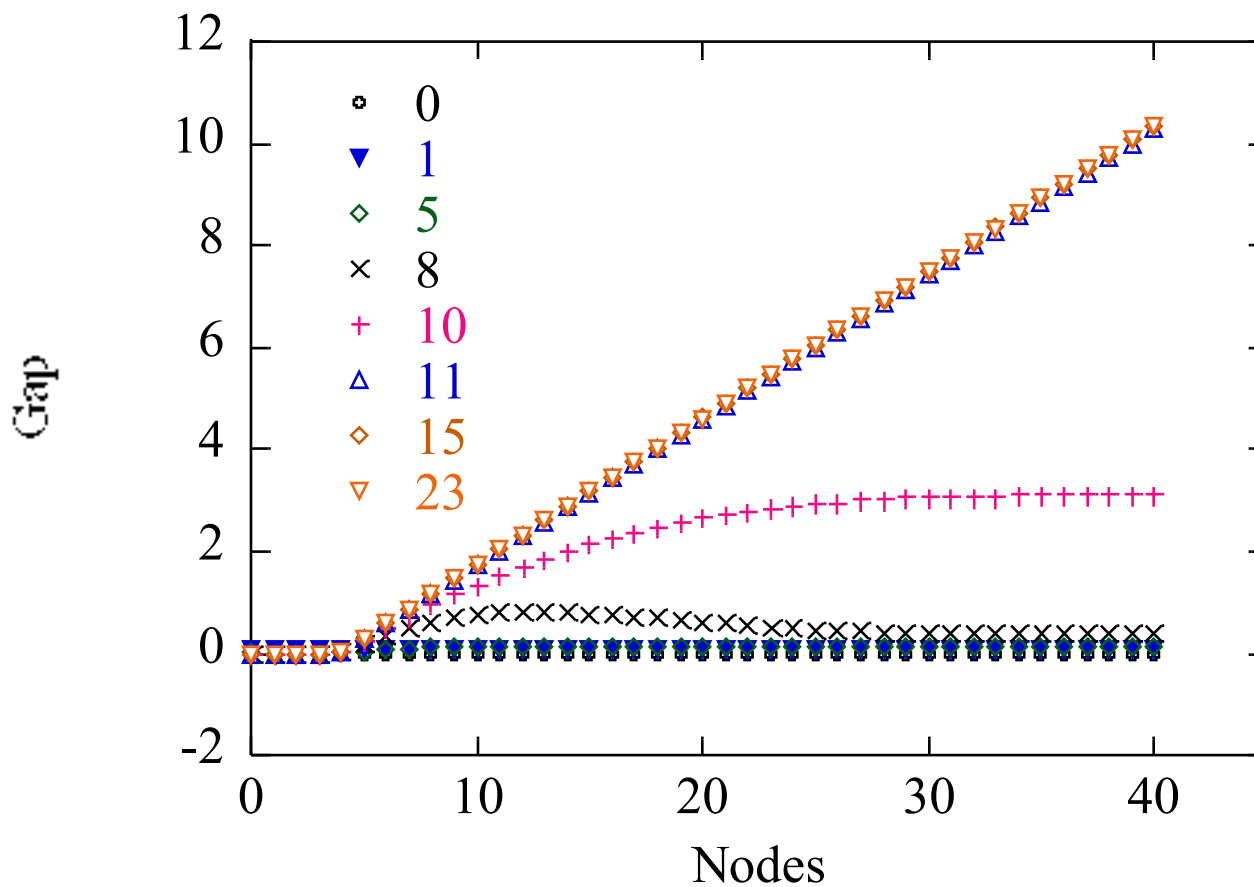


初期ギャップが0
なので, ここでは
, 微小なギャップ
($1.e-8$)のときに
接触と判定

例題の計算結果

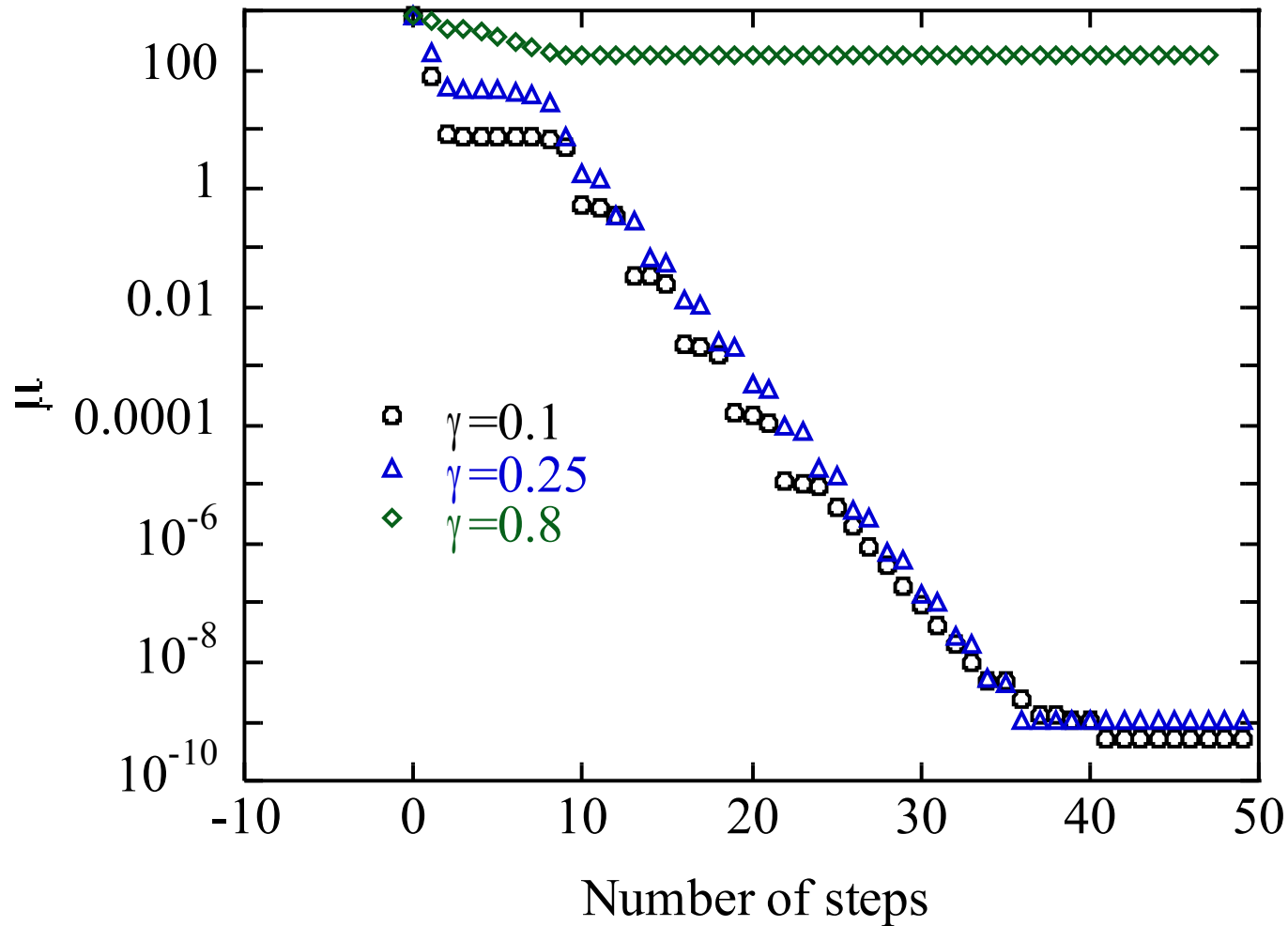


ギャップの収束の様子



試行錯誤法では27反復

μ の収束の様子

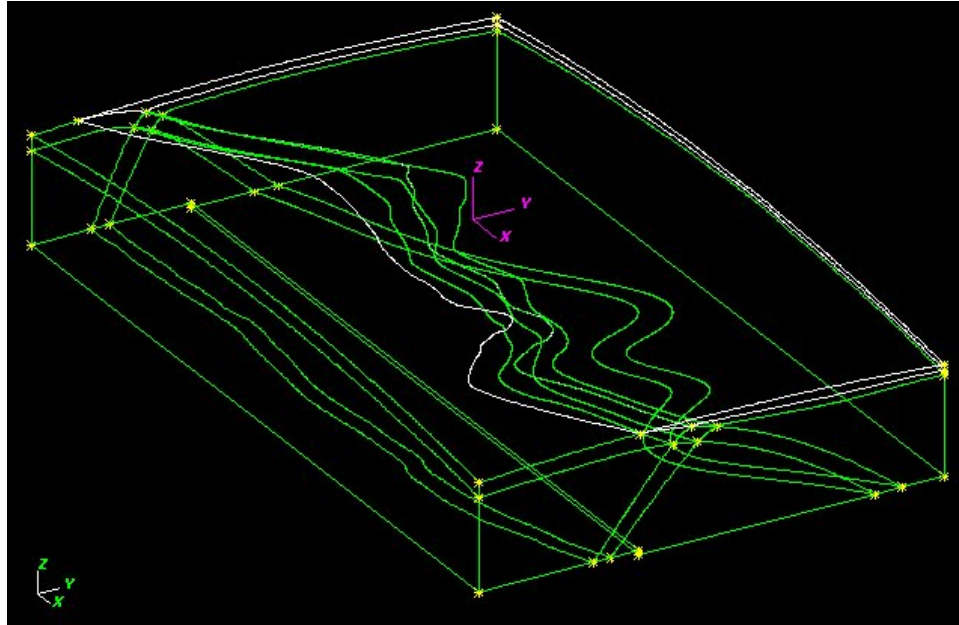


おわりに

- 接触問題に主内点法を直接適用
- 数値解析例
- 試行錯誤法よりも反復回数が少ない

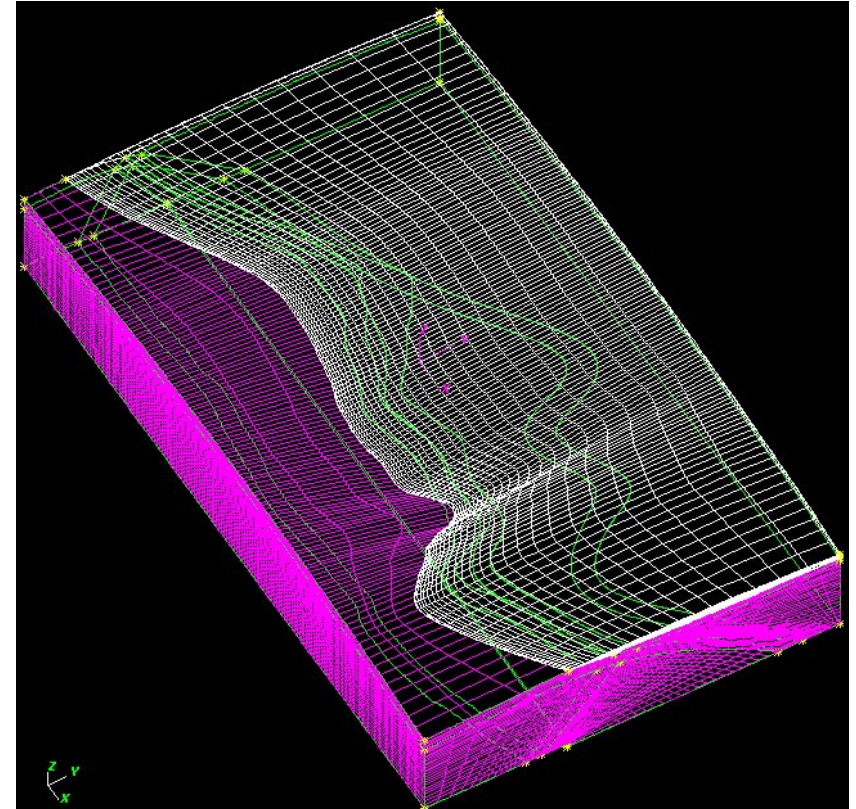
- 提案した定式化の収束性は？
- 初期解の設定（初期解ではギャップが大きい方がよい？）

六面体メッシュ生成(日本原子力機構)



IGESデータのインポート

地球シミュレータおよび東大地震研のプロジェクトにおいて作成



西南日本メッシュ(ディスロケーション解析用)